

大日本商事正行社 幹事 村上 泰  
 主任 宮本 政造  
 本驛前 書記 大竹 兵馬  
 東白河 大 小名濱 上遠野 湯本門  
 乗合 一般 高岡 自動 車部  
 貸切 湯本驛前 電話 五七番

# 磐城自治新報

発行日 一月十五日(毎月二回)  
 編輯印刷 箱崎義一  
 兼發行人 箱崎義一  
 發行所 福島縣石城郡湯本町  
 天王崎四番地  
 磐城自治新報社  
 電話四〇〇番  
 紙代 一部金十錢送料共  
 廣告料 五錢 十二字 一頁 金五  
 十錢 場所指定 金壹圓

昭和三年九月十五日 行發日五十月九年三和昭  
 日三十月八年三和昭 可認物便郵種三第

## 報新治自城磐

(一) 號五第

### 昭和戊辰に際し

箱崎 吞海

近時我國の狀態は政治上思ひむと  
 想上經濟上甚だ憂慮に堪へ  
 本年は恰も 今上陛下即位  
 も記念すべき年であり且戊辰  
 辰の年と云へば我々は此際  
 に於て須らく胸に手を當てて  
 靜思して明治維新を回顧し  
 我々の先輩が火の如き熱誠  
 と玉の如き高潔を以て此大  
 業を成せる心事を想ひ昭和  
 戊辰の今日に於て、我々は  
 果して何を爲すべきかを直  
 果に考慮せなければならぬ  
 唯ふに明治維新に際して  
 は外には外國船の迫るあり  
 内には尊王佐幕の争あり海  
 内沸くが如く若し一步を  
 やまらば國家の運命真に計  
 るべからざる危機に際會し  
 て居たのである。其時に方  
 て我々の先輩が當時實算僅  
 かに十七歳の新帝を扶けて  
 勇斷果敢五條の御誓文を翼  
 贊して以て民心のむこう所  
 を定めたる其壯烈沈勇實に  
 肉をどり血沸くの感を爲さ  
 しむるのである、殊に五ヶ  
 條の御誓文を示さるるに際  
 して我國未曾有の變革を爲  
 ひがある、そして是等の者

は皆互に自己の利益の部分  
 のみを考へて國家社會の大  
 局を考へない若し此儘に放  
 任して置ては各人は知らず  
 識らずに自己の利益となる  
 方面を幾分なりとも誇大に  
 力強く主張する事となるは  
 人情の免るべからざる所  
 である。  
 則ち書畫は毛を謹みて貌  
 を失ふと云ふたとへの如く  
 虎の書を書へて若し口しげ  
 ばかりを忠實に熱心に書か  
 ざれば知らず識らずに  
 虎の如き高潔を以て此大  
 業を成せる心事を想ひ昭和  
 戊辰の今日に於て、我々は  
 果して何を爲すべきかを直  
 果に考慮せなければならぬ  
 唯ふに明治維新に際して  
 は外には外國船の迫るあり  
 内には尊王佐幕の争あり海  
 内沸くが如く若し一步を  
 やまらば國家の運命真に計  
 るべからざる危機に際會し  
 て居たのである。其時に方  
 て我々の先輩が當時實算僅  
 かに十七歳の新帝を扶けて  
 勇斷果敢五條の御誓文を翼  
 贊して以て民心のむこう所  
 を定めたる其壯烈沈勇實に  
 肉をどり血沸くの感を爲さ  
 しむるのである、殊に五ヶ  
 條の御誓文を示さるるに際  
 して我國未曾有の變革を爲  
 ひがある、そして是等の者

た眞の俳句はなかく大  
 成しないよ。  
 乙「さうですか今晩は一つ  
 其の俳句の話をして呉れ  
 ませんか。初心者にわか  
 るやうに」  
 甲「朝日が梅の花を照らし  
 た壯麗な感じを表現する  
 のに、朝日が梅の花を照  
 らしました。梅花旭日に  
 映じ壯麗です。なごいろ  
 ありませうが之等の  
 文は單に説明しただけで  
 作者の本當の感じはさう  
 であつたのか讀者は此の  
 文を讀んだだけでは作者  
 の感じを悟ることは出来  
 ません。作者の胸奥にひ  
 びいた感激を其の儘讀者  
 にひびかせることは出来  
 ないところが之を  
 梅の香のつと日の出山路を  
 と表現したらどうです  
 作者の心胸にしみ渡つた  
 感激を直ちに讀者の生命  
 にまで波及立ちを起させま  
 す俳句の妙味俳句の眞義  
 はここにあります。  
 乙「なるほどねーでは俳句  
 にはむづかしい規則でも  
 あるのですか?」  
 甲「法律のやうに改つた規  
 則や命をからむ葛かつら  
 則はないが自ら約束づけ  
 られた約束はある。併し  
 それも明治以前の俳句と  
 大正の俳句とは多少趣が  
 違つてゐます。  
 之を順序立て系統立て説  
 明すれば大変よいと思ひ  
 ますが初心者にはむづか  
 しからうと存じますから  
 先づ高濱虚子の説から御  
 話し申しませう。  
 乙「高濱虚子つてどんな人  
 物ですか?」  
 甲「高濱虚子は高濱虚子の  
 大家の一人です。虚子は  
 第一に「俳句は十七文字  
 の文學である」といつて  
 居ます併し必ず十七字で  
 なければ俳句でないとい  
 ふ意味ではありません大体  
 十七音の心持で味へばい  
 いのです一音や二音多く  
 なつても少くなつても差  
 支ありません。  
 昔の人々は五七五音でな  
 ければ俳句でないやうに  
 云ひましたがそれは形式  
 にとらはれて眞の俳句の  
 精神を知らぬ考へです  
 乙「さうすると十七音の心  
 持で味へばそれでよいの  
 ですね十七音でなければ  
 ならないと定義する必要  
 はないのですか?」  
 甲「虚子はそれから第二に  
 「俳句は季のものを読み  
 込む」  
 と云つてゐます。  
 俳句は大抵季の物をよみ  
 込でゐます例へば  
 草臥て宿かる頃や藤の花  
 といふ風に季のものをよ  
 み込んでゐます併し一言  
 こゝで斷つて置きます大  
 正、昭和の俳句中にはい  
 くらか季のものをよみ込  
 んでないところの俳句の  
 あることです。  
 即ち季のものをよみ込ん  
 でなくとも俳句であるや  
 否やといふ疑問です。

<p>石城銀行組合          生購買入所          小口組平支店          生購買入所          猪狩菊三郎          平町電四七三          請負業</p>	<p>猪狩菊三郎          平町電四七三          請負業</p>	<p>荒川銀次          平町          土木建築          請負業</p>	<p>丸山組          平町電六二          土木建築          請負業</p>	<p>川田鐵工所          川田梅吉          電九三五          平町</p>	<p>三井吳服店          平町 柏原幸次郎          電二三八番</p>	<p>片寄小彌太          平町          家具家具一切</p>	<p>山野邊藥店          平町電四五四</p>	<p>山崎名會社          平町電一〇番          醬油醸造元</p>	<p>平町藝妓屋組          組合長 王 川</p>	<p>平町料理屋組          組合長 すずき亭</p>	<p>平町三業組合          組合長 只野忠康</p>	<p>平町營業所          東部電力株式會社          主任 武田精一          平町</p>
---	---	--	--	--	---	--	----------------------------------	---	------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---

沼知寫眞館へ  
 湯本表町

# 日本三虛空藏の稱ある 磐崎能満 虛空藏尊

## 御即位紀念臨時開帳

石城郡磐崎村大字  
西郷能満寺境内に  
安置せる能満虛空  
藏尊御即位紀念臨  
時御開帳は来る九  
月廿六日舊八月十  
三日午前五時より  
午後五時まで五回

### 臨時紀念開帳緒言

清朗なる秋冬の天 京都に法師の劍創に初まり靈軀は吾邦未曾有の盛典にして上下觀迎措く能はず都鄙到は平朝臣磐崎城主親隆公の表賀して、今上陛下の千秋明元年に至り不思議法師の萬歳を謳歌し祖宗の御遺徳再生なりと稱し寺門の荒蕪を欽仰せざるはなし、因て復興し常住坐臥靈像を信此度不磨の御大禮を祝禱せ仰して恢弘の實を擧げ瑞應んと欲し檀信協力當寺境内山諸成願院能満寺と號し專に安置し奉る能満虛空藏大ら念佛の教を布く、是れよ士の臨時紀念開帳を企て既り先き天曆七年郷里郷黨疫に其筋の出願許可を得たる病流行して害毒日に加はりを以て信仰扶植のため吾門 民家安住するに由なく時人平組大衆出動法要講話並に 靈像を奉持し恭敬崇拜して紀念開帳参拜の式を舉行し 立どころに其疾苦を救ふ衆其威徳を偲び長へに利顯の 皆之を奇として蘇生の想を新たなるを慕ひ老若男女を なせり利生の著き憧憬するして靈化に浴せしめ且つ靈に餘りあり其後城主の息女地の宣揚を謀り千歳大祭執 生産の惱みあり危急朝夕に 行の氣運を惹起せしめんと 逼り慈母の悲歎遺瀾なく良 秀上人に請ふて日夜 靈像に 祈り平産の験を得たりと云 抑も當寺は能満虛空藏大士は 祈り平産の験を得たりと云 特に能満虛空藏大士は

智慧の發育を司り男女十三 期たるを以て強健智慧を宿すの理を基き將來の立身出世を祈誓し正月十三日、七月十三日は參詣祈願の士多し、夫れ大字西郷は磐崎村の中ひたい。

### 偶語

花葉山人 人修身の説いてゐるやうだが、私から観るとちやんちやんがおかしい、なせならば、宗教の信念から培はれたものでないから、根幹に觸れないで、技葉ばかり論じた、何なるか、宗教的の信念が土臺になつてゐてこそ、倫理も修身も意義をなすの

健康な者には危険思想が、大いに体育運動を奨励するといふが、寔に倫理も修身も意義をなすの、見よ、毒草の傍には、ひそかに藥草も生えてゐる筈なものだ、國民を擧げて全部が惡思想に犯されてゐる譯ではない、是を救済しや

今日危険思想は、今日俄かに湧き出したのではない、六十年前、排佛毀釋の時から芽生えて來たのだ、否、其時から求道の念を培ふべき宗教の恵から遠ざけられて、信仰のない情操のない人間が造られて來たのだ、其所へ外來の惡思想がやつて來たのを幸ひに同氣相求むるの意味で忽ち握手してしまつたのだ、當然な事である、佛陀の言はるゝには王威を藉らざるば法を廣めるること能はずと、吾等貧乏坊主が唇を破らしてまで叫んだとて大河のやうに流れて來る惡思想を喰ひ止ること出来ぬ、罪を徒らにも、願くば地方發展の爲め、吾

して欲しいのだ。學校で兒童たちに倫理の修身の説いてゐるやうだが、私から観るとちやんちやんがおかしい、なせならば、宗教の信念から培はれたものでないから、根幹に觸れないで、技葉ばかり論じた、何なるか、宗教的の信念が土臺になつてゐてこそ、倫理も修身も意義をなすの

見よ、毒草の傍には、ひそかに藥草も生えてゐる筈なものだ、國民を擧げて全部が惡思想に犯されてゐる譯ではない、是を救済しや

今日危険思想は、今日俄かに湧き出したのではない、六十年前、排佛毀釋の時から芽生えて來たのだ、否、其時から求道の念を培ふべき宗教の恵から遠ざけられて、信仰のない情操のない人間が造られて來たのだ、其所へ外來の惡思想がやつて來たのを幸ひに同氣相求むるの意味で忽ち握手してしまつたのだ、當然な事である、佛陀の言はるゝには王威を藉らざるば法を廣めるること能はずと、吾等貧乏坊主が唇を破らしてまで叫んだとて大河のやうに流れて來る惡思想を喰ひ止ること出来ぬ、罪を徒らにも、願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

願くば地方發展の爲め、吾

小松崎洗張本店 小松崎善四郎 電七七番	平町旅館案内 扇屋 電一六五番	和泉屋旅館 電二七番	住吉屋本店 電一五九番	住吉屋支店 電一四九番	大村屋 電一七五番	新藤屋本店 電四五九番	新藤屋支店 電一四八番	丸新館 電二二番	炭屋 電一三八番	星製藥株式會社 磐城配給所 平町 駒木根忠三	平町會議員 一同	山メリヤス店 電六〇五番	白土自動車部 電二二番	佐藤福太郎 平町 電六一番	材木商 新藤屋支店 電一四八番	平町 なかや洋服店 電二〇三番	平町 新妻はな物店 新妻 慎次	平町 平製氷株式會社 電二二八番	漆器指物 家具佛具 丸はん 電三五九番	小松崎洗張本店 小松崎善四郎 電七七番
---------------------------	-----------------------	---------------	----------------	----------------	--------------	----------------	----------------	-------------	-------------	------------------------------	-------------	-----------------	----------------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	------------------------------	---------------------------

願くば地方發展の爲め、吾

湯本間  
湯本運送株式會社  
電話八番  
平町  
湯本間  
湯本運送株式會社  
電話八番  
平町  
湯本間  
湯本運送株式會社  
電話八番  
平町

吉田敦和先生謝恩碑  
湯本町關船諏訪神社

境内に建設せらる

石城郡湯本町大字關船吉田工此程竣工来る十六日午前  
敦和先生の謝恩碑を建設す十時湯本町大字關船諏訪神  
社へ平町山崎與三郎氏外三社地内に於て盛大なる除幕  
十名發起となり本年六月起式を舉行すこと。

忠君愛國論の嚴正批判 (四)

默堂

四、皇室中心主義の論  
近頃相當に用ひられる此は皇室の御光は夫れと正比對する決死的奇襲、龜山上  
語について一言を費さねば例して輝く、國民輝かざれ皇の元冠の際耳を以て國難  
ならぬ、此語に對して余は、皇室の御光も亦輝かぬに代らんとする御祈誓。近  
嚴肅な心持を以て批判せねのである。  
ばならぬと思ふ何んとなれ日輪は本で日光は末である 獻身的御行動の如きは申す  
ば近頃は動もすれば此語を如く、皇室は中心で國民は迄もない。  
振りかざして自己の主張に圓圍である云ふのは一つ 歴代天皇の勅語の中に表れ  
「忠純」愛國の焼印を押し、正しい見解が同時に日光に御詞のいづれにも、祖  
て偽證せんとする者がある なくば日輪の如く國民なくばの美化、淨化、善化が天皇  
からだ、神聖至純なる皇室 以なきが如く國民なくばの美化、淨化、善化が天皇  
の公明正大に心附かずして 皇室の皇たる所以は、御天職であり天皇及皇族に對する愛情の外に、今一  
輕々に皇室中心主義を標榜と云ふ見解も正し又日光は從來祖に對して將又國  
し上皇室の大御心を臆測しは日輪を離れては存在しない 家に對しては實に純眞な御  
乃至は誤斷し因循退嬰の民如く國民は皇室を離れては 忠節を御盡しになつた。  
衆の甘心を買はんとする不 存在しない云ふ事も正し 抑々天皇が族が國家に御忠  
純な者があるからである 節をお盡し遊ばされる事と  
抑々我皇室と國民との關係 此最後の推論には異議を唱 國民が國家に對して忠  
は之を例せば宛かも日輪と へるものがあらう何んとなれ純なる事は一に歸して我々  
月輪との如きものである日 れば今日の論は多く國の祖國の選訓を依弘にする  
輪の赫々と輝き吾人をして 民の内面的生活に交渉しない 所であつて、君民忠節の對魯の哀公が孔子に向つて  
抑かしむる所以のものは 民の内面的生活に交渉しない 照は祖國自身であり國體の  
の日光が輝々として照り渡 然し日本魂(生命)と 發揚であり更に語を換へて  
るからである。日光照され 日本人總てとは離れて存在 言へば國家人格の己性の發  
ば日輪恒在すると雖、吾人 得ないものである事を確 揚と云ふ事に外ならぬ所  
は日輪の存在を常に確認す 認するものは、眞に、日本國家尊なる所以  
る事甚だ困難である、夫れはお互に意識の上に日本國 である。  
と同じ様に國民が自からそ 民として存しない事を悟得六、國家愛國益國家忠

第一義の道德的國家(日來ませぬ)と答へたとか。  
此の見解に従へば日本に於ては國民の純眞一國にせよ、一家にせよ  
て皇室中心主義と云ふイスな行動、偽りなく私心なきその存亡、その禍福は心掛  
ムを用ふる事は廣大無邊な行動は夫れが現時に見て國による事で天命でも何でも  
室國民一如の第一義の道家に益にならうが、害にならうが、それを天命と許り見  
德的素質ある國體に對して 對する至純なる行為としてを細へ上げて置くからであ  
五、天皇及び皇族の 國家 受け入れらるべきである余  
に對する御忠誠 此行為を國家愛と言ふ。こゝに一つの笑ひ話がある  
日本國民は古來國家皇室に 只第二段の見地たる國家益 或る貧乏人が友達の三吉に  
對しては一死以て盡した如 十月を神無月といふのは何  
く天皇及び皇族に對する 個人行為を無條件に許放たう」と尋ねると三吉  
して御忠誠を御賜しになつ 容は出来ぬ否場合によつて は物識り顔に  
た、歴史に現れた神武天皇 屢々柳屋しなればなら 日本國中八百萬の神々は  
の御東征日本武尊の熊襲に ぬ。 毎年十月出雲の大社へお集  
一例を以てせばボルシエ 神ナシ月、畧して神無月と  
イズムの主張者にして眞に 神ナシ月、畧して神無月と といふのよと説明した。  
もなく頻りに書策するとき 以下次號」

道話

貪之神の出現

「國の與るも亡ひるもすべ  
て天命で人力の及ばぬ事  
に想はれる何んなものお  
やう」と尋ねると孔子は  
「否天命でござりませぬ皆  
な自分の心に對しては天災  
地妖も何等加ふことは出

栗原森之助 電話十六番  
鈴木道太郎 常盤線湯本駅前  
和洋酒類販賣卸商 田子 稔  
卸商 田丸屋商店  
洋服裁縫一切 並ニ附屬品 泉屋洋服店 中島 清江  
石油發動機應用 出張糶摺精米業 小泉 久 磐崎村白鳥  
荒物雜貨 雜貨各種 小野太市郎 小名濱町  
荒物雜貨 卸商 吉田恭平 湯本町電五十八  
銅鐵板細工所 橋本 春吉 湯本町  
雨樋一式 水戸屋 麵製所 大内 商店 電六十四番  
三井炭坑 小野瀨余弟吉  
藁谷 五郎 磐崎村  
平和屋 轉車店 新台販賣並ニ修繕

共同主義の金融機關 僅かの掛金でまごまる資金  
御大典 新會員大募集  
今秋の御大典の記念事業 貴下の家庭にお奨めする  
貯金にも融通にも有利な...  
◆ナゼ不景氣ですか?  
それはアラユル金融機關が、地方の金を集めて、  
みな中央へ持つてゆくからです。そうして地方の  
金廻りが悪くなるからです。  
◆民衆の金は民衆へ!  
地方の金は地方で融通したい、地方の金まはり  
よくして不景氣の風をお拂ひたい。不景氣の追  
拂ひ役は、湯本無盡につとめさせて下さい。  
◆絶好の記念事業!  
町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したい  
と思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭で  
は何をお選になりますか。  
◆不景氣の追拂ひ策!  
湯本無盡は、貯蓄にも融通にも有益である上、中  
央集金の弊を打破して、地方の金融を潤澤にする  
ものであります。御大典記念にはゼゼ湯本無盡へ  
御加入下さい。  
營業案内呈上。社員參上説明...  
福島縣石郡湯本町二二五  
大藏省 湯本信用無盡株式會社  
免許 電話 四七番  
振替 仙臺七九六四番  
炭礦用諸材料 請負 志賀 清 磐崎村  
炭礦坑木 請負 志賀 清 磐崎村

教育界

湯本校 五女 比佐ヤイ子
むじやきな一年生
カラコンとやさしい下
駄の音が向ふの方からきこ

此の間向ひの小母さんの所
に小犬が生まれました。黒と
白とのまじりけでムクムク

湯本校高一女東鈴木ウメ
ぼこりたいたいの兄
世の中には不良の兄病弱の

内郷第三尋六 直岡 行
五分間
チリンと鐘がなったの

選挙期日の變更

折笠 利一
制限選挙の幕は切り落され
て上は帝國議會より下は町

石城郡第三區教員庭球大會
山田村
村會議員一同
山田村役場
安島重三郎
秋山義之助
佐川 郎
山田 尋常 小學校
折笠鬼子 太郎
鈴木八郎
秋山健藏
下山田嘉二郎
秋山清太郎
下山田一雄
磐城炭礦
野木已之吉
鈴木辰三郎
濟藤榮孝
渡邊豊助
渡邊藤吉
橋本譽次
長倉病院
磐城共濟病院

大日本商事正行社 幹事 村上 泰
主任 宮本 政造
東白河 大河 小名濱 上遠野 湯本門
乘合一般 高岡自動車部